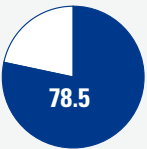
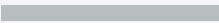
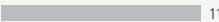
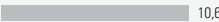
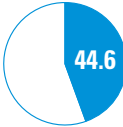
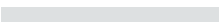
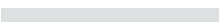
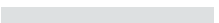
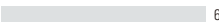
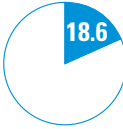
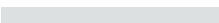
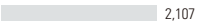
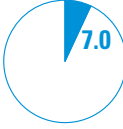
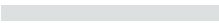
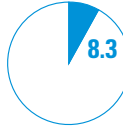
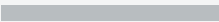
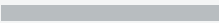
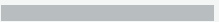
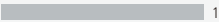
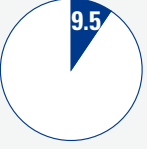
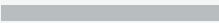
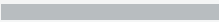
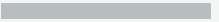


事業概要

	売上高構成比 (%)	売上高の推移 (億円)
	航空運送事業 >>> Page 32 	2009  12,295 2008  13,016 2007  12,487 2006  11,326 2005  10,669
	国内線旅客事業 >>> Page 33 	2009  6,993 2008  7,395 2007  7,260 2006  6,850 2005  6,587
	国際線旅客事業 >>> Page 35 	2009  2,910 2008  3,115 2007  2,784 2006  2,292 2005  2,107
	貨物郵便事業 >>> Page 37 	2009  1,097 2008  1,143 2007  1,051 2006  967 2005  909
	その他事業 >>> Page 38 	2009  1,293 2008  1,362 2007  1,390 2006  1,216 2005  1,064
	旅行事業 >>> Page 39 	2009  1,887 2008  2,153 2007  2,080 2006  1,994 2005  1,902
	その他の事業 >>> Page 40 	2009  1,482 2008  1,989 2007  1,968 2006  1,909 2005  1,833

※ ホテル事業セグメントの消滅について

2007年6月にANAが保有するホテル事業関連子会社14社の全株式とその他関連資産をグループ外に一括譲渡し、前期からホテル事業セグメントは消滅しました。

事業内容	当期業績のポイント
ANAグループは国内線輸送旅客数で世界第7位、総輸送旅客数でも世界第12位の航空会社グループです。 お客様の幅広いご要望にお応えするとともに、利便性の高い航空運送サービスをご提供するため、ANAおよびグループ航空会社6社で旅客便・貨物便の運航を行っています。またグループ各社は、航空運送事業に付随したサービスの提供や、航空機の整備作業、空港ハンドリングについての役務の提供などを行っています。	・世界的な景気後退の影響を受け、下半期からすべての分野で総需要が大幅に減退しました。 ・需給適合を推進することによって、一層の事業効率化を図りましたが、上半期における燃油費高騰の影響などもあり、営業利益は大幅な減益となりました。
1日当たり128路線、912便を運航し、年間約4,270万人のお客様にご利用いただいています。旅客輸送シェアは約47%で、国内線のリーディングカンパニーです。 「簡単・便利」をキーワードに、最新のIT技術を積極的に取り入れた予約・搭乗システムの充実や、「プレミアムクラス」などの高品質な機内サービスを提供し、あらゆる場面での顧客満足の向上に挑戦しています。	・企業の出張費抑制や消費の冷え込みなどにより、需要は急激に悪化しました。 ・需要減少に対しては、休止・減便など、迅速な生産量の調整を実施しました。 ・柔軟な運賃設定とイールドマネジメントの徹底により、単価は前期並みを維持しました。
日本から世界各地へ、34路線、週間548便を運航し、年間約440万人のお客様にご利用いただいています。世界最大の航空連合「スターアライアンス」の主要メンバーとして、高品質で利便性の高い輸送サービスを提供しています。	・世界的な景気の後退に伴い、下半期はビジネス需要が大幅に減少しました。 ・需要に対応した生産量の削減により、収支の改善に注力しました。 ・全方面で旅客数が減少したものの、燃油特別付加運賃の改定などにより、単価は改善しました。
6機の貨物専用機と、旅客機の貨物スペースを活用して事業を行っています。 貨物便は国内線では4路線に1日5便、国際線では16路線に週90便を運航しています。 中長期的に成長が見込めるアジア域内の航空貨物エクスプレス需要を取り込むべく、事業基盤・収益基盤の整備を進めています。	・国内線貨物は、景気後退の中、運賃戦略の見直しなどにより増収を達成しました。 ・国際線貨物は、上半期は順調に輸送重量を伸ばしたものの、下半期に需要が急減し、また、単価も下落したため、通期では減収となりました。
国際空港事業(株)、全日空整備(株)、ANAテレマート(株)などをはじめとするグループ各社で、航空運送サービスに必要な空港での地上支援業務、航空機の整備、予約案内などを行っています。これらの業務はANAグループ以外の航空会社に対しても提供しています。	・他航空会社の業務受託や、機内販売の増売に努めたものの、総需要低迷の影響により、附帯事業などによる収入は減少しました。
ANAセールス(株)を中心として、ANA便をメインとした航空券の販売と、主としてANA便を利用した「ANAスカイホリデー」「ANAハローツアー」ブランドの旅行パッケージ商品などの企画・販売を行っています。海外では、日本国内で販売した旅行パッケージ商品の利用者に対して、現地での各種サービスの提供や、海外発着の航空券、旅行商品の販売を行っています。	・国内旅行は、旅行需要が低迷する中、各種施策の実施による販売増を図りましたが減収となりました。 ・海外旅行は、景気減速などによる需要の冷え込みが影響し、減収しました。
情報通信、商事・物販、施設管理、航空機の装備品修理など、航空運送の周辺事業を中心に事業を展開しています。 情報通信分野では主に航空情報関連端末やソフトウェアの開発や展開を行っています。また商事・物販分野では、予備部品など航空関連資材などの輸出入、および空港での店舗販売や通信販売の運営などを行っています。	・商事および物販事業では、航空機事業および機械事業における取り扱いが減少し、減収となりました。 ・ANAロジスティクスサービス(株)は当期より航空運送事業に変更しています。